

京都府青少年育成協会会長賞 「心の眼』で見る社会」

京丹後市立大宮中学校 3年
吉岡 桃奈



突然ですが、質問を二つさせて下さい。一つ目、障害のある人を見かけたことはありますか？二つ目、見かけた時のあなたの「目」は、どんなものでしたか？この私の主張で、皆さんの障害に対する考え方が少しでもいいものになってくれると嬉しいです。

私の姉は重度の知的障害があります。そのため勉強のスピードが遅く、難しい言葉では伝えられません。ですが、毎日姉なりに頑張っています。最近、書けるようになった字も増え、母と協力してお弁当をつくってみたい、家族みんなの食器を洗ってくれたり、毎日が成長の連続です。少しずつできるようになっていくことが増えると、私も嬉しくなります。今でもけんかはたくさんするけれど、陰ながら毎日の挑戦を応援しています。

ですが過去に、悲しい出来事がありました。

とあるテーマパークに行った時、「もう歩きたくない。いやだ。」と姉が泣いて動かなくなりました。背が高く見て目は中学生の女の子が突然グズグズ言うので、周りの人は姉をチラチラとみるようになりまし。奇妙なものを見るような、冷たい視線。幼い私にとってはその視線が怖くて仕方なかったです。これと同じような経験は、その後も何回かありました。何気ない視線が時に人を傷つけるのです。

この経験を通して、障害者やその家族を取り巻く環境で大切にしたいことを見つけました。それは、「心の眼で見る」ということです。私の考える「心の眼で見る」とは、目から入る表面的なことや事実だけで判断するのではなく、物事や人についてその背景に目を向けて深く考えることだと思えます。私の姉を、「変な人」という目で見ると、「何か事情があるのかな」と疑問を持ち、相手の事情を想像しようとするのでは全然違うと思えます。

心の眼で見ると、困っている人に取って必要なことが見えてきます。そして自分で考えて動くことができれば、誰もが生きやすい社会になると思いません。健康が一番ですが、今後いつ自分が障害を持つかわかりません。その時支え合える環境が作られていることはとても大切なことだと思います。

また心の眼で見るとは、障害者と関わる人々にとっても大切となります。障害のある人と向き合っていくことは、とても難しいことです。私自身、昔は姉のことが嫌いでした。みんなのお姉ちゃんとは違う、普通のお姉ちゃんもつとこうしてくるのに。どうしようもないのにずっとそう

思っていました。そんなことを思ってしまう自分もいやで、苦しい思いをしたこともありまし。最近、友達に姉について聞かれた時、話すことをすこくためらいましたが、勇気を出して話してみました。すると友達は「お姉ちゃんすごいね！知れてよかった。」と言ってくれました。姉のこと、姉の妹として今までいろんな思いを持ってきた私を認めてくれたようで、心が温かい気持ちになりました。とても嬉しかったです。

最近では、障害者と関わる人の負担や苦しさも問題となっています。周りの支援はとても大事です。障害者もその周りの人々も笑顔でいられる環境をつくっていくこともとても重要だと感じます。そこで心の眼で見ることが大切なのです。実際に出来ることは少ないかも知れません。ですが、大変そうだという一言で終わらせず、自分ですしでも考えてみてほしいです。身内に障害者と関わっている人がいたら、頑張っているねと声を掛けてみる、いなかったら深く考え、理解しようとする姿勢をとってみる。それだけでも周りが笑顔でいられる環境をつくる第一歩になると思えます。

姉の生き方、私の生き方が違うように、すべての人の生き方は違います。障害を害のままで終わらせてしまうのか、個性として大切にされていくのか。私たちの笑顔は、あなたの「心の眼」にかかっています。

さあ、今日からこの社会を心の眼でみてみましょう。きっとみんなが笑顔になれる社会に繋がると私は信じています。